

早川町応援団獲得マガジン

やまだらけ

YAMADARAKE

JUNE

No.85

2018

よみがえる旅籠



清水屋と
大阪屋の
再生

赤沢宿

COVER STORY | AKASAWASHUKU ◉文=向井 真行

赤沢宿。早川町に縁のある方なら一度は聞いたことのある地名ではないだろうか。日蓮宗の信仰に基づいた講中宿。石畳と特徴的な外観の残る建物の景観。静寂と自然の音が感じられる安らぎの里。

文献によると、赤沢に人が住み始めたのは平安時代といわれる。真言宗の寺院があつたという記録があることから、修験者が住み着いたものと考えられている。鎌倉時代に日蓮宗に改宗した後は、聖地身延山と七面

毎分 1,630 ℥ 湯温 52°C の掘削自噴火温泉では日本随一を誇る新湯湧出全てのお風呂、客室風呂、給湯、シャワーに至るまで 源泉掛け流し

全館源泉掛け流しの宿

西山温泉 慶雲館

TEL: 0556-48-2111 FAX: 0556-48-2611 <http://www.keiunkan.co.jp>

早川町が生き残る道は自然を守ることにある

西山温泉 元湯 蓬萊館

TEL: 0409-2702 山梨県南巨摩郡早川町湯島 73 TEL: 0556-48-2211(代) / FAX: 0556-48-2366

靈峰七面山の登山口である旅を支える

株式会社 俵屋観光 バス ジャンボタクシー

有限会社 俵屋旅館 宿泊 宴会 法事などに

TEL: 0409-2732 山梨県南巨摩郡早川町高住 621 電話 0556-45-2500

広告



写真は改修前の清水屋

山を結ぶ参道の中継地点としての地位を確立した。集落の人々のほとんどが職業は七面山に係わるものだった。そこで、「赤沢の子どもが最初に覚える言葉は、『南無妙法蓮華經』というお題目だ。」というほど信仰が生活に密接につながっていたのである。赤沢宿が最も栄えたのは大正時代から昭和初期で、最大9軒の旅館が営業していたとされる。その頃に若山牧水や徳富蘇峰などが赤沢の旅館に宿泊し、七面山に登っているのが日記に記されている。

その後自動車交通が発達し、徒步でしか到達できなかつた赤沢宿は宿場としての地位を失っていく。七面山

に係わる仕事が減つたことで人口の流出が起こり、旅館も1軒を残すのみという状況が長く続いた。

私がこの赤沢宿と係わり始めて16年、移住を果たしてから10年になるが、その間に赤沢に住む人が中心となつてこの状況を変えようという様々な変化が起つた。数年前にやまだらけでも執筆させて頂いた「そば処武蔵屋」の開業もその一つだ。今回、その後の改装・再開のあつた清水屋と大阪屋について書いてみたいと思う。

江戸時代末期に建てられ、大正時代末期に増築された清水屋。古い歴史を持つ建物であるが、長い間空き家のまま手入れをされない状態が続き、赤沢区会でも議題に上るほど老朽化が進んでいた。

転機は2010年(平成22年)。建物が町に寄付されたことだ。早川町長が「ここを赤沢宿の拠点として整備したい」と考え、早川町と文化庁、山梨県の共同出資で建物の改装が行

清水屋の再生

今回は、清水屋の再生に大きな役割を果たした赤沢同志会の中心メンバーの望月利和さんにお話を伺つた。

同志会は赤沢出身の同年代で構成され、集落外に住んだ経験のある人がほとんどという特徴もある。同志会のメンバーは赤沢帰郷後、まちづくり活動の一環として町並み保存活動を始めることになる。その始まりは観光地化することよりも、「自分たち

われた。かつて旅館を営んでいたこともあり、赤沢宿独自の通り土間や広めに仕切られた部屋など、細部にわたり復元がなされている。

その後、赤沢同志会に管理委託がなされ、2013年(平成25年)に重要伝統的建造物群保存地区選定20周年に合わせて「宿の駅 清水屋」としてオープンした。現在は、地元の材料も使つた飲食物を提供する休憩所、観光案内所として機能しており、赤沢宿を訪れる観光客の方々の憩いの場となつている。また、絵画や書の展示イベントが行われることもあり、今後も芸術分野のイベントが計画されている。

奈良田温泉
七不思議の湯
白根館
日本秘湯を守る会々員
日本源泉湯宿を守る会々員
TEL 0556-27-0224
FAX 0556-27-0227
www.nukuyu.com/shiranekan/

十谷上湯温泉
源氏の湯
日本秘湯を守る会々員
TEL 0556-0606
山梨県南巨摩郡富士川町十谷4249
電話 0556-27-0224
ファクシミリ 0556-27-0227
www.nukuyu.com/genji-yu/

新築、改築、マイホームの事なら何でもおまかせ

日本建築のプロフェッショナル

株式会社 望月工務店

〒409-2713 山梨県南巨摩郡早川町保 1766
TEL・FAX 0556-45-2661

の子どもの世代が住みたいと思える赤沢にしたい。」という思いからだつた。石畳の敷設や建物の修復もその頃に始められたことだ。その成果が1993年(平成5年)の重要伝統的建造物群保存地区の選定となつた。

望月さんには清水屋再生の経緯から伺うつもりでいたが、始めから今後の展開についての話になつた。どうすれば清水屋の機能が向上するか。どうすれば赤沢が盛り上がるか。そんなことを日々考えているそうだ。

今考へていることは、「赤沢には歴史がある」ことだという。景観だけでなく、赤沢が持つ歴史そのものに価値があるという考え方だ。江戸時代の公文書や古文書からその当時を窺い知ることができるが、赤沢の強みは宿場だつたこともあり、様々な紀行文からより深い生活への理解ができるのだ。例えば、大正時代末期に若山牧



清水屋2F

水が七面山に登山した際に、身延駅から赤沢宿を経由して七面山に至る道中が紀行文に詳細に記されていれる。赤沢の建物、人、暮らしぶり。それらを掘り起こせば、これからのおもてなしに生かせるのではないか…。また、その当時と参詣の道が違っていることも昔の道を辿るという点で生かせるのではないか…。望月さんは、清水屋だけではなく、赤沢全体の構想の中で清水屋が果たせる役目を追求する。構想スケールが大きいのだ。

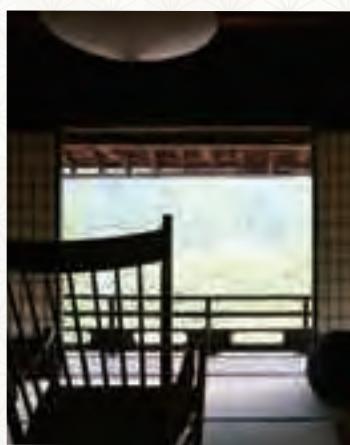
最も熱を込めて話して下さったのは、「実は一番価値があるのは、曼荼羅

である。」ということだ。曼荼羅は一見すると経文が書かれているもの、と思われがちだが、元来は寄進した際に札状として渡されるもので、その中に記載されている品目を調べると赤沢の生活ぶりが最も分かるという。その曼荼羅が赤沢には数千点以上あるので、「それらを全て調べられたら面白いよね。」と望月さん。古い写真や絵にも興味があるそうだ。

1) 空き家への宿泊(民泊)や賃貸への窓口にしたい。

2) 赤沢の食文化に根ざした食事を清水屋で提供できるようにしたい。

という点から始め、最終的には補助金が必要な運営を目指すことで、自分たちの次の世代が活躍できる場を作り上げることが目標だと語つて下さった。清水屋の進化は今後も続く。



大阪屋2F

広告

舌切りすずめは「殺人未遂罪」で
有罪か? 無罪か?

吉話法廷
Season2

NHK E テレ「吉話法廷」制作班 編
オカモト國ヒコ 原作 / イマセン 法律監修
定価(本体1,300円+税)

東京都台東区小島1-4-3 TEL.03-3861-1861 FAX.03-3861-1507

ESTABLISHED IN 1919
金の星社



浜田屋商店
電話 0556-48-2311

南アルプス街道の交通安全と
清流早川の自然を守ることを永遠のテーマに
地域社会の発展に貢献する事を目指します。

早川砂利協同組合

理事長 井上聰一郎
山梨県南巨摩郡早川町小繩26
電話 0556-45-2450

赤沢宿

大阪屋は赤沢では江戸屋と並んで名主のような存在で、多くの分家を持つ。古くから旅館としての歴史を持つが、10年以上旅館業の休業状態が続いていた。赤沢宿を紹介するパンフレットやサイトでも、「営業している旅館は残り1軒しかない」という記載が多く見られ、往時を知る人からは寂しい

大阪屋の再生



大阪屋 外観

思いを聞く機会も数々あった。そんな中、東京在住で設計事務所を営む飯田さんが大阪屋の建物を紹介され、旅館としての再生が動き始めた。

元々ゲストハウスを運営したいという思いを持っていた飯田さん。決め手となつたのは、建物の価値や雰囲気だけではなく、江戸屋旅館に宿泊した際に女将さんから聞いた大阪屋の話なのだそうだ。昔がいかに栄えていたか。今の状態がいかに寂しいか。そん

飯田さんも望月さんと同じように、大阪屋をどうするかだけではなく、赤沢の発展の中で大阪屋は何ができるか、という観点で物事を考えてみると感じられた。どこに住んでいるかは関係なく、「地元のために」という思いは同じなのだ。

な話を聞いて大阪屋をゲストハウスとして再生することを決意した。

株式会社YADOという会社を立ち上げ、昨年開業したばかりであるが、外国人向けの予約サイト(Airbnb)に登録したこともあり、外国人旅行者が多く宿泊している。現状は広告を打つておらず、予約サイトでの口コミで浸透している段階だという。実際に宿泊した人たちの評価は上々で、まずはそこから宿泊者が増えていけば、次の展開も考えていきたいとのこと。例えば、現在は宿泊者の多くが外国人だが、日本人旅行者へももつとアピールしていくこと、宿泊している外国人と赤沢の住民とが交流する場を設けること、さらに交流の一つの手段として、赤沢の食文化を旅行者へ伝えるという構想も考えているそうだ。

地域発展のお手伝い！地域の暮らしを守る！

早邦建設株式会社

早川町役場新庁舎

【本社】〒409-2732 山梨県南巨摩郡早川町高住 645-27
TEL.0556-45-3000 FAX.0556-45-2288
【生コンクリートブロック】TEL.0556-45-2700
<http://www.soho3000.com/>

日新火災海上保険 代理店

幡野保険事務所

〒409-3306
山梨県南巨摩郡身延町夜子沢4020
TEL 090-8014-1337
FAX 0556-42-3073

防災用品

非常用アルファ米・保存水・発電機
簡易トイレ・防災用毛布・テント等

オフィス事務機(有)

〒409-3244
山梨県西八代郡市川三郷町岩間 2077
TEL.0556-32-1003 FAX.0556-32-1004

2018
夏

早川町観光イベントニュース！

8月

南アルプス生態邑イベント

21~23日

夏の子どもキャンプ はやかわキッズレンジャーになろう！

南アルプスの麓・早川町の自然を守る

「はやかわキッズレンジャー」になろう！
森や川を探検しながら生きものたちを調査して、
自然を守る保全活動もします。
食事は焚き火でアウトドアクッキングに挑戦！
子ども限定の夏のキャンプです。

日程：2018年8月21日（火）～23日（木）2泊3日

対象：小学2年生～6年生

参加費：33,000円（2泊6食付・税込）

定員：20名

締切：2018年8月14日（火）（先着・定員になり次第締切）

送迎：新宿より専用送迎バスあり

申込：南アルプス生態邑/ヘルシー美里

TEL：0556-48-2621 FAX：0556-48-2622

E-mail：info@hayakawa-eco.com



9月

『奥山梨おやこで山村留学体験ツアー』

～地域と生きる小さな学校を訪ねる～

8～9日

「学校教育なんて、どこも同じようなもの」、そんなふうに思っていませんか？
早川町立早川北小学校は、そんな思い込みを打ち破ってくれることでしょう。

ユネスコエコパークに登録された『南アルプス』の自然環境を対象にした
研究学習『BEANS (=自然科学者になろう！)』。

児童自身が地域を取材して台本を作り、全児童で演ずる伝統の民話劇。

小規模学校だからこそ伸び伸び育まれる社会性。

今回は学校紹介のみならず、5月に田植えをおこなった、

学校近くの田んぼで親子稻刈りへの参加や、

『BEANS』をおこなっている「南アルプス邑野鳥公園」の体験もできます。

家族向けツアー、田舎での子育てを検討している家庭にもおススメのプログラムです！



日程：2018年9月8日（土）～9日（日）

※前泊も可能ですが、宿泊料金が別途追加となります

料金：大人7,600円／名 子ども（小学生）4,800円／名

（例：大人2名、小学生2名の家族参加の場合、料金は24,800円となります）

※交通費は自己負担ですが、最寄り駅（JR身延線「下部温泉駅」）までの送迎が可能です。

宿泊：ヘルシー美里 コテージ棟

定員：7組まで

申込期間：6月18日～

お問い合わせ：ヘルシー美里（0556-48-2621）



7月22日～
8月25日

南アルプス生態邑イベント
南アルプスの清流で川遊びプラン

家族で過ごす、とびきり楽しい夏休みの思い出を作りましょう！
南アルプスの天然水を全身で感じて遊びます！
ライフジャケットの貸し出しあるので、
泳げない小さなお子様でも安心です。



2018年7月22日（土）～8月25日（土）期間中の1泊2日

対象：小学生以上

参加費：大人：8,000円（1泊2食付・税込）
子ども：7,300円（1泊2食付・税込）

定員：子ども20名/日

締切：各宿泊日の3日前まで

申込：南アルプス生態邑/ヘルシー美里

TEL：0556-48-2621 FAX：0556-48-2622
E-mail：info@hayakawa-eco.com

8月13日

『奈良田盆踊り復活祭』
～未来へ繋げるシンポジウムと踊りのタベ～

数々の伝説や独自の風習から「秘境」と呼ばれてきた奈良田集落。
独特な民謡と踊りが、地元で立ち上がった「白樺会」の活動によって、
なんとか保存、継承されてきています。



しかし風物詩だった盆踊りは、年中行事としては途絶えて数十年。
それを、奈良田に関わる町内外の人々が協力して、
復活させようとしています。
奈良田を拠点とするエコパークステーション・古民家カフェ『鍵屋』、
日本上流文化圏研究所も加わって実行委員会を作り、動き始めました。

この盛り上がりを未来へ繋げるべく、今年は「伝統的で固有性の高い民謡と踊りが、
地域で継承されていく意味と価値」を問い合わせシンポジウム、そして奈良田出身ではない
一般参加（見物者）向けの、奈良田踊り講習も企画しています。みんなで楽しみましょう。ぜひお越しください！

日程：2018年8月13日（月）

時間：14時頃～20時頃 《前半》シンポジウム 《中盤》踊り講習 《夕方から》奈良田踊り

場所：奈良田集落

送迎：送迎は予定しておりません。宿泊が必要な方は、各自でご手配ください。

お問い合わせ：日本上流文化圏研究所（0556-45-2160）

8月

10～12日

早川エコファーム第5回活動日
「夏野菜収穫祭！」



早川町の豊かな自然と多くの生きものと一緒に育った
夏野菜を収穫しましょう！

ミニトマト、ナス、きゅうり、スイカ、地野菜の「茂倉うり」などなど…
多くの夏野菜が皆さんをお待ちしています。

収穫した野菜には草刈りや追肥などのお世話をします♪

日程：2018年8月10日(金)～12日(日)

場所：おばあちゃんたちの店周辺（山梨県南巨摩郡早川町）

料金：体験会員 1000円～ ※食事は自炊となります。無料宿泊所あり（先着）

送迎：新宿・品川より送迎バスが運行します。※詳細はお問い合わせください。

定員：30名

締切：開催日の10日前まで

お問い合わせ先：
早川エコファーム事務局
おばあちゃんたちの店
0556-48-2718
info@eco-farm.or.jp





やまっこ冒険



早川の今昔をお届け!
やまっこ探検隊!

No.03 サマーキャンプ*

今年もやってきた、森の探検隊、サマーキャンプ!!

早川町の豊かな自然の中で思いっきり遊ぶ体験を通して、町内外の子ども達に早川町の素晴らしさを感じてもらいたいと考えています。また、それぞれ違う環境で生活している子ども達が一つの場所に集まり、新しい仲間と交流を深めることを目的としています。

自分のありったけの力でぶつかり、自然の中で何かを成し遂げるという体験は、他の何にも代え難い思い出として子どもたちの心に残ります。日常とは違った早川町の楽しさを経験できるこの機会に、是非ご参加ください。

【入門！探検コース】

日程：7/25(水)～7/27(金)

参加費：27,000円

【飛躍！冒険コース】

日程：8/19(日)～8/22(水)

参加費：31,000円

【創造！オリジナルコース】

日程1：7/30(月)～8/3(金)〈※経験者向け日程〉

日程2：8/6(月)～8/10(金)

参加費：36,000円

※経験者向け日程は、過去2回以上参加した事がある方が対象です。

【参加対象者】

小学校3年生から中学3年生（各コース定員35名 先着順）

【資料請求・お問合せ先】

NPO法人日本上流文化圏研究所 担当：中川 裕幾

☎0556-45-2160 URL：<http://joryuken.net/camp/>

次号予告！（2018年9月上旬お届け）No.86 「島根芋を次世代に」

大島集落で受け継がれている「島根芋」。

それを残そうと奮闘する「大島 島根芋の会」の取り組みを紹介します。

早川町で感動体験を…

南アルプス生態邑

光源の里温泉 ヘルシー美里

南アルプス邑野鳥公園

ご予約・お問い合わせ

TEL/0556-48-2621

<http://www.hayakawa-eco.com/hmisato/>

生命保険、損害保険のことなら

株式会社 さいとうエージェンシー

tel.055-280-3360 fax.055-280-3361

自動車販売、オートリース、レンタカーのことなら

有限会社 S·T·E·P

tel.055-280-3350

〒400-0422 山梨県南アルプス市薊沢 1356-1

やまだらけ定期購読のお願い

「やまだらけ」では、今後も「山の暮らしの価値」と、それを後世に守り伝える人々の活動を応援して参ります。

やまだらけは、広告料と会員の皆様の会費で成り立っています。会員の皆様には、やまだらけを毎号お届けいたします。会員として、この取り組みを支えてください。

【年会費】正会員：10,000円 贊助会員：3,000円

【振込先】ゆうちょ銀行 ○二九店

当座 0095644

【名義人】特定非営利活動法人

日本上流文化圏研究所

太めで噛みごたえのある、
香り豊かな昔ながらの
「田舎そば」

そば処
アルプス



電話：0556-48-2666

【平日】11:30～15:00 【土日】11:30～16:00

山梨県南巨摩郡早川町薊沢584-1

木曜定休 ※祝日の場合は営業

ホームページ：h-alps.jimdo.com

発行元／NPO法人日本上流文化圏研究所

住所／山梨県南巨摩郡早川町薬袋430 〒409-2727

電話／0556-45-2160 フaxシミリ／0556-45-2268

<http://www.joryuken.net/>

山を覗けば宝の山
やまだらけ

私が初めて赤沢を訪問したのは16年前。バスを降りて山道を歩いて登った。その当時はそば処も開業しておらず、店は何も無かった。赤沢の転機は重伝建15周年イベントだったと思う。予想以上の盛り上がりを見せ、赤沢の持つ価値を住民が改めて実感したことが、その後の様々な活動に生かされたのではないかと思っている。私も住民の人一人として、動き出しの時期にきている気がする。[向井 真行]